

女性の健康づくり R6の取組状況

医療機関・教育機関・事業所・地域コミュニティ等と連携し、特に自立した生活に大きく影響する「骨粗しょう症」に注目した取組を実施

- ①がんや骨粗検診受診・HPVワクチン接種率向上への取組
 - ・30歳女性への個別勧奨
 - ・20歳（子宮がん）、40歳（乳がん）女性への無料クーポン券発行
 - ・山口大学学生による啓発
 - ・医療フォーラム「骨粗しょう症」をテーマに実施
 - ・新川市まつり、FMきらら、店舗、親子イベントなどでの啓発
 - ・健康サポーター事業所部門へのメール配信
- ②簡易の骨密度測定・生活習慣アンケート調査の実施
- ③市政出前講座「ちゃんと知りたい女性の健康」・地域での講座の開催
- ④ライン・メール・SNSなどによる啓発
- ⑤女性の健康相談会の実施（3/6 13時～15時 保健センター予定）
- ⑥へら塩ベジうべ・骨粗しょう症に関する川柳の募集
- ⑦こころの健康事業

第1回審議会での主な意見(女性の健康づくり)

【課題について】

- 若い女性のヘルスリテラシー不足が課題。
- 行動変容しやすい環境づくり（ポイント加算など）が必要。
- HPVワクチンのキャッチアップ接種について、若い人は電話予約に抵抗があるのでは。
- 若い人は美容や体脂肪には興味があるが、骨の重要性は理解していない。
- 家庭の意識が重要。
- こどもだけでなく、お母さん自身の健康にも触れるべき。

【効果的な手法について】

- 中高生や大学生が同世代に広める活動を。
- 有名人がメッセージを発信すると効果的。
- 生徒には、外部講師からの話が効果的。
- 3歳児健診時、お母さんに啓蒙を。

【働く世代に対する取組について】

- 女性が働きやすい環境を整備している企業を認定する制度を。
- 企業の取組をランキング表示で可視化してはどうか。

ライフステージ別の健康課題等（各機関へのヒアリングでの意見）

○思春期

- ・ 月経不順や生理痛での悩み
- ・ 心の悩み
- ・ スマホ依存、睡眠への影響
- ・ SNS被害による望まない妊娠など

○更年期以降

- ・ 更年期症状を知らない
- ・ 骨粗鬆症
- ・ 悩みを話せる相談先

○全世代

- ・ 女性特有の健康課題の知識がない
- ・ 医療機関（婦人科）を利用しない
- ・ かかりつけ医（婦人科）がない
- ・ 家庭など周囲の理解

○若年期・成熟期

- ・ 婦人科検診（特に職域）
- ・ プレコンセプションケア※の必要性
- ・ 家族の健康管理（相談先）
- ・ 産後うつ
- ・ やせ
- ・ 職場での理解

※将来の妊娠を考えながら女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うこと。



- ・ **特に**、この世代は、働く世代であり、これまで健康づくりへの介入が不十分だった。
- ・ 子育て世代でもあり、家庭への影響も大きい。

市職員アンケートの結果

市役所職員を対象にアンケートを実施。女性職員231人から回答。

- 女性特有の健康課題や症状で困っている 40%
→20～40歳代 43%、50歳代以上 36%
- 月経に関することで不安や問題がある 28%
- 月経困難症や「やせ」が妊娠出産に影響することを知らない 24%
- 女性特有の健康課題に対して、自己管理している。(相談や受診無し) 58%
→20～40歳代 62%、50歳代以上 50%
- かかりつけ婦人科医がない 57%
→20～40歳代 53%、50歳代以上 61%
- プレコンセプションケアを知らない 94%
→20～40歳代 96%、50歳代以上 92%
- 女性特有の病気に関心がある 49%
→20～40歳代 56%、50歳代以上 41%

R7取組の方向性

全てのライフステージの女性の健康課題に対して取組を実施しつつも、特に20－40歳代をターゲットとした取組を強化。

参考) 企業による調査の結果

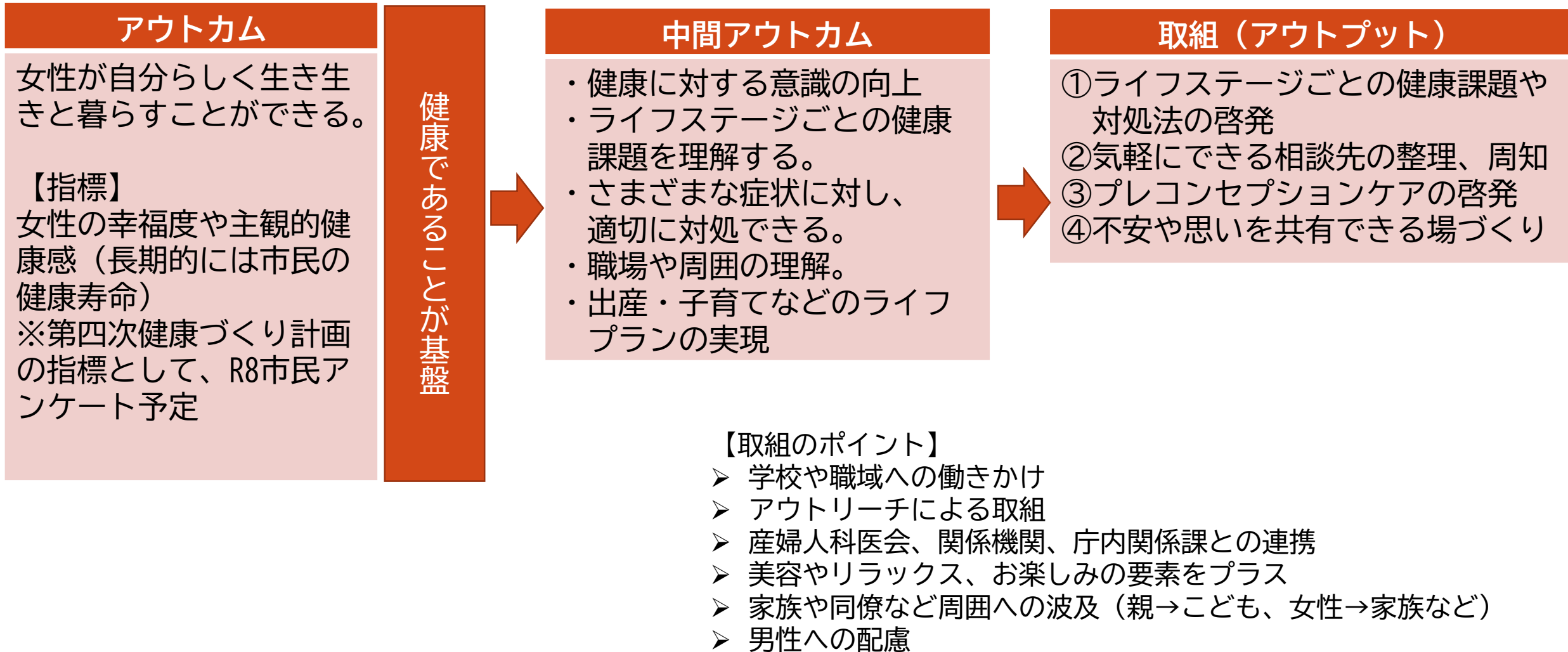
- 働く女性の1/3が月経困難症※1だが、治療を受けているのは6%※2
- 月経困難症の対応が、その後の妊娠出産に影響することを知らない。
- 女性特有の健康課題に対して、医療機関を利用しないのは60%※3
- かかりつけ婦人科医がいないのは60%※4
- 年齢に応じた妊活の考え方や適用される医療制度があることを知らない。
- 自分自身の健康について無関心である。関心があっても知識がない。

※1 月経困難症は約900万人と推計（持田製薬ウェブサイト<https://www.mochida.co.jp/woman/disease/dysmenorrhea/>）
15～50歳の女性人口は2673万2000人（2012年総務省統計局人口推計）

※2 持田製薬ウェブサイト（<https://www.mochida.co.jp/woman/disease/dysmenorrhea/>）

※3,4 大塚製薬 女性の健康推進プロジェクト「女性のヘルスリテラシー調査2024年版」
（https://www.otsuka.co.jp/woman_healthcare_project/report/health_literacy.html）

ロジックモデル



①ライフステージごとの健康課題・対処法の啓発

- ・ 積極的に現地に出向き、セミナー等を実施。
- ・ 市産婦人科医会や企業と連携。

【学校】

- ・ 小・中学校はメール配信を活用し、保護者に啓発。
- ・ 保健だよりやがん教育、性教育など、今ある場や媒体を活用。
- ・ 保護者自身の健康とこどもの健康 両方を意識する取組。

【地域】

- ・ ターゲットとする世代が集まる場は積極的に活用。（子育て拠点8か所など）

【職域】

- ・ 出前講座「ちゃんと知りたい！女性の健康」で対象に応じた啓発の強化。
- ・ 健康サポーター（事業所部門）メルマガでも情報を発信。

【イベント】

- ・ ウォーキングイベント、スポコミフェスタ、アーバンスポーツフェスタ、新川市まつり

②気軽にできる相談先の整理、周知

- ・ 市内産婦人科、薬局、保健センターなど、身近な相談先を集約して周知。
（市医師会産婦人科医会、薬剤師会、養護教諭、こども支援課等に協力依頼）
- ・ 自己管理で良いのか、受診すべきかの判断が適切にできるような整理と周知
- ・ 相談内容の共有、蓄積による実態把握、対応策の検討にも繋げる。
- ・ 健康分野に限らず、庁内で多方面の相談窓口の整備や集約を目指す。

参考)

- ・ 山口県 産婦人科・小児科オンライン相談

医療面での相談を産婦人科医・小児科医・助産師に無料で相談できるサービス。

妊産婦と小児の保護者対象

時間帯により、相談方法が異なる（ライン、メール）

- ・ 女性の悩み相談室（山口県総合周産期母子医療センター）

女性の健康、避妊、不妊、思春期、子育て、DV、更年期

電話、メール、面接

- ・ 尾中病院 女性外来

更年期、生活習慣病、微小血管狭窄症

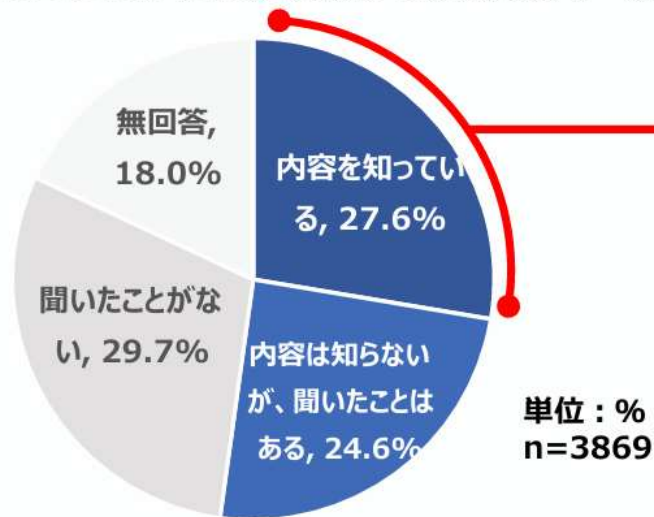
毎週火曜日



③プレコンセプションケアの啓発

- ・ 情報を収集・整理し、リーフレットや市ウェブサイトなどで周知。
- ・ 市政出前講座や健康サポーター事業所部門を活用し、職域や地域で積極的に周知。
- ・ 希望する教育機関へ産婦人科医や保健師が出向き、講座を実施（性教育授業に内容を追加）。
- ・ 健康づくりサポーターバンクにおける講師の充実化。

Q81.プレコンセプションケアについて知っていますか。（1つだけ）



■ 知っている ■ 内容は知らないが、聞いたことはある ■ 聞いたことがない ■ 無回答

Q82.プレコンセプションケアについて、健康経営の一環として取組を実施していますか。（1つだけ）

☒ 実施している	30.3%
☐ 実施していない	69.2%
☐ 無回答	0.5%

（Q81.「プレコンセプションケアの内容を知っている」を選択した n=1069）

SQ1.プレコンセプションケアの具体的な取組内容等を問う設問の回答事例（プレコンセプションケアに該当する取組を抜粋）

- ・ 年齢性別問わず全職員を対象にプレコンセプションケアの研修や動画配信
- ・ 新規採用職員研修で男女双方にプレコンセプションケアについて講義
- ・ プレコンノート配布
- ・ 子宮頸がんワクチン推奨
- ・ 風しん梅毒などの感染症講話

令和6年度健康経営度調査（大規模法人部門）のアンケート回答より
（第1回健康経営推進検討会 事務局資料）

④不安や思いを共有できる場づくり

- ・ 同じ症状に悩んでいる女性同士の、思いや不安などの語りあいの場
- ・ 「女性あるある」「コレ、真似してほしい！」を様々なかたちで共有

“女性あるある”で悩みを共有 問題点の改善へ向けて意識改革 働きやすい職場作りでリーダー育成 回結力増す「女子会」

～ SDGsジェンダー平等の推進に向け貢献 ～

メッドホールディングス 2019年5月22日 10時43分



女性の健康あるあるカルタ大会を行いました



サイショウエクスプレス株式会社は女性の健康に関する症状の理解推進のため、女性の健康あるあるカルタ大会を行いました。

リフォーム事業を中心に3社の子会社を持つ株式会社NEXTAGE GROUP(ネクステージグループ)と、その子会社MED Communications(メッドコミュニケーションズ)株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:佐々木洋幸)は、「女性が働きやすい環境を作るプロジェクト」を立ち上げ、SDGs No.5「ジェンダー平等」の推進に向け貢献していきます。

女性の職場環境において仕事と育児の両立は困難な課題です。働く意欲はあるものの、その環境が整っていないために退職を希望する社員もいます。その現状を受け止め職場環境の改善を図る企業側の努力も求められます。当社では営業・内勤・SE(サービスエンジニア)、CA(施工管理)、など全国各地の様々な部署に所属する女性社員を集め、気軽に相談できる場を提供し、性別に関わらず本来の能力を十分に発揮できる職場環境を作っていきます。



の健康づくり

女性応援セミナー

- 女性に関心の高い美容やマッサージなどを同時に体験できる、女性を応援する健康セミナー
- 市役所の市民交流棟（※夏頃完成予定）や子育て拠点施設などで実施。
- 参加者同士が思いや情報を共有できる時間を設定



市民交流棟（完成予想図）

- ・ **ターゲットに対してのアプローチについて**
どのようなアプローチが有効か（学校、地域、職域など）
- ・ **関係機関等との連携について**
どのような連携が考えられるか（連携先、手法など）
- ・ **その他 女性の健康づくり全般について**